

新制度生かし発展を



岩手県学童保育連絡協議会
〒020-0122
盛岡市みたけ3-38-20
岩手県青少年会館内
Tel・Fax 019-681-0651



第52回全国学童保育研究集会

全国学童保育研究集会in兵庫

全国の学童保育関係者が一堂に会し、学習や交流を行う第52回全国学童保育研究集会は11月4日、5日に兵庫県神戸市で開催されました。全国から約4000人（岩手県からは51人）が参加。初日は開会行事、全体会を行い2日目は51のテーマで分科会が行われました。

全国連協副会長に嘉村氏

11月3日に行われた全国連協の総会で岩手県連協が推薦していた嘉村祐之氏（盛岡・緑が丘学

童保育クラブ指導員）が副会長に選任されました。嘉村氏は再任。任期は2018年11月まで。

童保育をさらに充実、発展させていこう」と呼び掛けました。

特別報告では陸前高田市の村上弘子指導員が登壇。震災からの6年を振り返り「街の復興は進むが、悲しみやつらさを

歓迎行事では兵庫県の子どもたち約100人が尼崎市出身の尼子騒兵衛さんの漫画「忍たま乱太郎」の主題歌に合わせてダンスを披露しました。会場内の通路を子どもたちが駆け抜け、元気あふれる全国研の幕開けとなりました。

全大会では木田保夫全国学童保育連絡協議会会長が基調報告を行いました。「新制度施行から3年がたち、各地で施策改善が広がるっている」とした一方「地域によっては大規模学童が解消しないなどの課題もある」とし、「新制度を生かして学



抱えた人もいる。子どもたちに心の痛みに寄り添い続けることの大切さを教え、命を守ること、生き抜くことを伝えていく」と思いを語りました。

続いて、日本福祉大学名誉教授 近藤 直子先生が「小学生のココロのヒ・ミ・ツ」と題して記念講演を行いました。「小

学生は価値観の形成期。得意なこと、好きなもの

を見つけていることで世界を広げ、学習とは違う考える力を身につけていく」と述べ、「学童保育では保護者と指導員と一緒に子どもたちを見守り、小学生が楽しく力をだせる場所を作っていくってほしい」と期待しました。

今年の全国研は、兵庫県連協の父母の協力で参

加証にバーコードが導入され、受付の待ち時間が短縮されました。分科会

は市内6会場に分散しましたが、各会場付近には兵庫県の父母の皆さんが案内に立ち、関西らしい朗らかなあいさつで迎えてくれました。

多くの人の手によって支えられている学童保育の魅力をより深く感じる全国研でした。

【関連記事2面】

つながる力

連協紹介

◇花巻市連協◇

花巻市連協には、花巻市内の19学童あるうち17学童が市連協に加盟し、そのうち5学童が県連協に加盟しています。

主な活動は、花巻市への要望書提出、会長会、支援員連絡会、支援員学習会があり、会長会は年2回市連協の会長が集まり自分たちの学童の悩みなど他学童との情報交換の場になっています。また支援員は連絡会、学習会を通して支援員と

してのスキルアップ、他学童の情報交換を企画運営しています。今年度は、毎年同じ事業内容などマンネリ化している市連協の活動、組織を見直すべく市連協あり方を開催し、現状の市連協の問題などを共有し、市連協のあるべき姿を検討していきます。

指導員不足・賃金格差、隠れ待機児童問題などまだまだ課題は山積みですが、市内に通う児童が、どの学童でも同じ環境、同じ保育が受けられるようみんなで力を合わせてがんばっていききたいと思っています。

（花巻市連協 本宮信也）

全国学童保育研究集会 in 兵庫

分科会 感想

子どもの発達と学力

子どもたちの生活を伝え保護者とともに育てる

子どもの気持ちに気づく

初の全国研 貴重な経験

北上市 和賀学童保育所

保護者 伊藤 由絵

初めて全国研に参加させて頂きました。都留文科大学の田中昌弥講師による「子供の発達と学力」についての分科会に参加しました。

周りから丁寧な教育を受けると、自分で考え行動し、自立出来なくなる。アクティブ・ラーニング

伝えることの大切さ学ぶ

滝沢市 巣子学童保育クラブ第一

指導員 主演 由希子

25人ほどの参加者で始まった分科会。一日では足りないほど、全国の指導員から出てくるたくさんの方の事例。そこに「そこはどんな思いで伝えたのか」「なぜ、そう行動したのか」「こんな風にしてみたいいいのではないかな」など様々な角度から

活発な議論が交わされ、「これぞ全国研！」という雰囲気満載の分科会でした。

保育を通して保護者を支援していく仕事であること、その一つが伝えることの大切さであることとを改めて学べた時間でした。

学童保育の役割再確認

盛岡市 上田学童保育クラブ

指導員 八重樫 恵子

子どもたちの心と体にとって、学童保育での経験がどんなに大切な役割を持っているのかを、改めて感じる事ができた全国研でした。

放課後のリラックスできる時間の中で、子どもたちの「好き」や「得意」をたくさん見つけて

仲間と一緒にとことん楽しめる学童をつくりたいと思います。



県内入所児童数1万4千人超

学童保育実施状況調査

全国連協がすべての市町村を対象に行った学童保育実施状況調査（2017年5月1日現在）の結果がまとまりました。全国の支援の単位数は前年比1649増の2万9278、児童数は前年比7万1747人増の114万8318人となりました。全国連協はこの結果について、各市町村が「省令基準」に基づいて学童保育を増やしていることの表れと分析しています。

岩手県は支援の単位数は前年比26増の367。

入所児童数は前年比842人増の1万4031人となりました。

岩手県教育委員会の「学校一覽」によると2017年5月1日現在の県内の小学校児童数は5万9459人となっており、県内の小学生の24%、およそ4人に1人が学童保育に入所していることになりました。

調査結果の詳細は全国連協ホームページをご覧ください。

組織拡大へ取り組み推進

県内学童保育クラブの県連協への加盟状況は全体の約三分の一で、県連協が岩手県の学童保育運動に責任をもつ組織として発展していくためには組織の拡大が重要な課題となっています。

今年度、組織部では地域ごとに担当役員を配置し組織の強化、拡大に向けた取り組みを進めます。

各地域連協内の未加盟クラブについては、当該地域と連携しながら働きかけをしていきます。

地域連協が未組織の抱える地域については日常的に相談と支援を行っていきます。

今年度、県連協では加盟推進のためパンフレットを更新しました。県連協の活動をより多くの方に知っていただくたいと考えています。地域連協の会議や、各クラブの保護者会などでご活用ください。配布希望の方は県連事務所まで。